

令和2年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【電気事業】

1 経営状況等

○事業実績

	令和元年度	令和2年度
供給電力量	498,590MWh	418,860MWh
料金収入	4,804百万円	4,902百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		令和元年度	令和2年度
収益的 収支	収入	4,982	5,098
	支出	3,609	3,721
	収支	1,373	1,376
資本的 収支	収入	743	251
	支出	2,507	2,218
	収支	△ 1,764	△ 1,967

2 経営指標

	令和元年度	令和2年度
① 経常収支比率	138.0%	137.0%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	566.7%	648.1%
④ 自己資本構成比率	85.6%	86.9%
⑤ 有形固定資産減価償却率	64.5%	65.4%
⑥ 企業債償還元金対減価償却比率	43.7%	30.7%

3 取組み状況

項目	令和2年度実績等
1 安定的収益の確保	
(1) 料金収入の安定的確保	・固定価格買取制度の適用を受けない15発電所の売電単価について、令和2・3年度分を8.89円/kWhとプラス12.1%の増額改定契約を締結
(2) 設備利用率の維持、向上	・水力発電所(小水力を含む)の設備利用率については、発電停止期間の短縮に努めたが、降水量が少なく、33.2%(前年度39.7%)となった。太陽光発電の設備利用率は昨年度より日照時間が減少し、15.1%(前年度16.1%)となった。 ※設備利用率:年間発電電力量(kWh) / (設備容量(kW) × 年間時間数)
(3) コストの削減	・小矢部川第二発電所主要変圧器更新工事において発注方法の見直しにより工事費削減 ・小矢部川第二発電所励磁装置等更新工事においてメンテナンスフリー機器の導入により維持管理費削減
(4) リパワリング	・国の補助事業を活用して、小矢部川第二発電所の水車ランナを高効率ランナに更新(最大出力は11,400kW→11,800kW(+3.5%)に増加)
2 電力システム改革を踏まえた電力供給のあり方	
新たな電力供給のあり方等の検討	・県民福祉の向上につながる新たな電力供給形態として、公営電気事業では全国初となる子育て支援事業「とやまっ子すすく電気」を平成30年8月から実施 ・富山県の活性化と低炭素化に資する新たな地産地消型の料金メニュー「とやま未来創生でんき」を創設(令和3年4月から実施)
3 再生可能エネルギーの推進	
(1) 小水力発電等の推進	・リプレース(全面的更新)を行う4発電所の発注仕様を現行比約13百万kWh以上の電力量増に設定
(2) 地熱発電の事業化	・立山温泉地域において、既設調査井の熱水湧出を促すため、汲み上げ試験を実施(結果:熱水湧出せず)
4 計画的な更新・修繕工事等の実施	
(1) 効率的な修繕の実施	水力発電設備修繕(長寿命化)計画に基づき、効率的な修繕を実施
(2) リプレース(全面的更新)	・大長谷第二、仁歩、庄東第一の3発電所について、設計・施工を一括して契約する方式を採用し、工事を発注 ・若土発電所について、水車発電機等電気設備の発注と土木建築設備の実設計画を実施
(3) 修繕費用の平準化	・計画に基づき庄東第二発電所1号機及び小矢部川第二発電所の細密点検を実施 ・水力発電設備修繕(長寿命化)計画に基づき、修繕を実施
5 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・クレーン運転士、高圧・特別高圧電気取扱者、危険物取扱主任など電気事業に必要な資格取得に努めるほか、水力発電に関する研修、電気関連法規や電気設備に関する講習の受講を推進

令和2年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【水道事業】

1 経営状況等

○事業実績

	令和元年度	令和2年度
契約水量	39,118千m ³	39,010千m ³
料金収入	1,622百万円	1,665百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		令和元年度	令和2年度
収益的 収支	収入	1,738	1,771
	支出	1,454	1,382
	収支	284	390
資本的 収支	収入	278	289
	支出	1,026	1,141
	収支	△ 748	△ 852

2 経営指標

	令和元年度	令和2年度
① 経常収支比率	119.5%	128.2%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	372.1%	434.1%
④ 自己資本構成比率	73.6%	75.0%
⑤ 企業債残高対給水収益比率	250.1%	226.7%
⑥ 料金回収率	118.9%	127.8%
⑦ 給水原価	42.7円	38.1円
⑧ 施設利用率	68.9%	68.9%
⑨ 有収率	100.0%	100.0%
⑩ 有形固定資産減価償却率	63.0%	64.0%
⑪ 管路経年化率	93.7%	82.5%

3 取組み状況

項目	令和2年度実績等
1 安全・安心な水道用水の安定供給	
(1) 水安全計画の策定	・平成29年3月に「西部水道用水供給事業 水安全計画」を策定済みであり、この計画のもと、水質の管理、施設の点検、教育訓練、研修等を実施
(2) 事故発生時の対応	・令和2年12月、浄水場薬液注入管破損を想定した危機管理対応訓練を受水団体、関係機関と合同で実施 ・令和2年度、配水管の漏水が1件発生、迅速な復旧を図った。
2 施設の耐震・老朽化対策	
施設の耐震・老朽化対策の計画的な実施	・平成27年度から約40年間で全ての管路を計画的に更新していく予定としており、令和2年度は高岡市東海老坂地内で管路更新工事を実施
3 将来の施設更新に必要な料金収入の確保	
(1) 料金収入の確保	・令和2年度の料金収入は1,665百万円(前年度比+43百万円)となった。 ・平成30年度から令和4年度までの5年間の受給協定を締結(給水単価据置き65円/m ³ 、基本水量を6%減量)
(2) 水道事業ビジョンの策定	・中長期的な視点に立つ戦略的な計画として、「持続」「安全」「強靱」の観点から、平成30年3月に「西部水道用水供給事業 水道事業ビジョン」を策定済み。
(3) コストの削減	・和田川浄水場、子撫川浄水場の電気機械設備の更新に合わせて、省エネ型のモータや変圧器への更新を実施
4 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・日本水道協会が主催する技術研修に参加
5 未活用資産の有効活用	
未活用資産の活用検討	・将来の水需要に対処するため確保してある水道用水源の有効活用に向けた検討や関係機関との協議を行った。

令和2年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【工業用水道事業】

1 経営状況等

○事業実績

		令和元年度	令和2年度
契約水量		78,014千m ³	78,082千m ³
料金収入		1,821百万円	1,823百万円
附帯事業	ゴルフ練習場	入場者数 59千人	56千人
		料金収入 60百万円	56百万円
	神通川浄水場	供給電力量 2,372MWh	2,278MWh
	太陽光発電	料金収入 95百万円	91百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		令和元年度	令和2年度
収益的収支	収入	2,145	2,122
	支出	1,364	1,430
	収支	781	693
資本的収支	収入	390	599
	支出	1,561	1,403
	収支	△ 1,171	△ 804

2 経営指標

	令和元年度	令和2年度
① 経常収支比率	157.2%	148.5%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	409.0%	546.7%
④ 自己資本構成比率	61.5%	63.7%
⑤ 企業債残高対給水収益比率	113.0%	117.4%
⑥ 料金回収率	152.8%	144.9%
⑦ 給水原価	15.2円	16.0円
⑧ 施設利用率	44.7%	44.3%
⑨ 有収率	100.0%	100.0%
⑩ 有形固定資産減価償却率	64.4%	65.2%
⑪ 企業債償還元金対減価償却比率	39.7%	31.8%

3 取組み状況

項目	令和2年度実績等
1 契約水量の確保	
(1) 契約水量の確保	・供給先が1社増え、令和2年度の契約水量は78,082千m ³ (前年度比+68千m ³)となった。
(2) 収入の確保と適正な料金水準	・令和2年度の料金収入は1,823百万円(前年度比+2百万円)となった。
2 施設の耐震・老朽化対策	
(1) 施設の耐震化	・令和2年度は和田川浄水場の沈殿池耐震化設計を実施した。
(2) 管路の更新	・平成28年度から西部工業用水道の管路更新を実施しており、令和2年度は射水市橋下条～寺塚原地内で管路更新工事を実施
3 低廉で安定的な工業用水の供給	
(1) 低廉な工業用水の供給	・和田川浄水場の電気機械設備の更新に合わせて、省エネ型のモータ・変圧器への更新を実施
(2) 事故発生時の対応	・令和2年度、配水管の漏水が2件発生、工水ユーザーへの迅速な対応と復旧を図った。
4 経営改善・健全化	
(1) 経営基盤の強化	・新規受水希望者と打合せを実施
(2) 他会計借入金残高の削減	・電気事業会計に90百万円、一般会計に100百万円を償還し、借入金残高を低減
5 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・日本工業用水協会が主催する技術研修に参加

○附帯事業(ゴルフ練習場)

項目	令和2年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 指定管理者制度の継続	・平成24年度に導入した指定管理者制度を継続している。(現行契約期間:H30～R4)
(2) 利用者の確保対策(利用の拡大とサービスの向上)	・早期割引、平日入場料無料、打ち放題の実施、プロによる無料レッスンなど、サービスの充実を図った。
2 施設・設備の改修	
老朽化した施設・設備の適切な改修	・老朽化した暖房設備の改修等を実施した。

○附帯事業(神通川浄水場太陽光発電)

項目	令和2年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 安定的な発電	・供給電力量は2,278MWh(前年度比△94MWh)、料金収入は91百万円(△4百万円)となった。
(2) 維持管理費等の経費節減	・大規模な故障を未然に防ぐため、適切に維持管理を実施

令和2年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【地域開発事業】（富山中央駐車場）

1 経営状況等

○事業実績

	令和元年度	令和2年度
利用台数	55千台	49千台
料金収入	61百万円	59百万円

○決算状況 (単位:百万円)

		令和元年度	令和2年度
収益的 収支	収入	63	60
	支出	36	35
	収支	27	25
資本的 収支	収入	0	0
	支出	48	38
	収支	△48	△38

2 経営指標

	令和元年度	令和2年度
① 経常収支比率	174.0%	173.0%
② 累積欠損比率	4,991.9%	5,195.1%
③ 流動比率	37.2%	40.8%
④ 自己資本構成比率	△1,867.0%	△2,020.9%

3 取組み状況

項目	令和2年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 駐車場における指定管理者制度の継続	・平成24年度に導入した指定管理者制度を継続し、業務効率化に努めている。 (現行契約期間:H30~R4)
(2) 利用者の確保	・アンケート等により利用者のニーズを把握するとともに、ホームページによる情報提供や、近隣施設との連携等を行い、サービスの充実に努めた。 ・今年度は、新型コロナの影響により、利用台数が対前年度比▲11%となった。
(3) 累積債務(旧スキー場事業)の計画的な償還	・企業局負担約24.4億円のうち、令和2年度末までに約20億円を処理し、令和3年度以降の償還予定額は約4.4億円となった。 ・引き続き、駐車場事業で安定的な収入を確保し、累積債務の計画的な償還に努める。
2 施設・設備の適切な維持・改修等	
施設・設備の適切な維持・改修等	・施設の状態や費用対効果も考慮し、安全かつ安定的なサービス提供のため、入口券発機等の必要な維持・改修を実施。

【参考】各事業における主な経営指標の算出方法等

経営指標	算出方法	指標の意味	電気	水道	工水	地域
経常収支比率	= (営業収益 + 営業外収益) / (営業費用 + 営業外費用)	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを表す指標	○	○	○	○
累積欠損金比率	= 累積欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益)	営業収益に対する累積欠損金の状況を表す指標	○	○	○	○
流動比率	= 流動資産 / 流動負債	流動負債に対する流動資産の割合から短期債務に対する支払能力を表す指標	○	○	○	○
自己資本構成比率	= (資本金 + 剰余金 + 繰延収益) / 負債・資本合計	総資本に対する自己資本の割合で、資本構造の健全性・事業の安全性を表す指標	○	○	○	○
企業債残高対給水収益比率	= 企業債残高 / 給水収益	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標		○	○	
料金回収率	= 供給単価 / 給水原価	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄われているかを表す指標		○	○	
給水原価	= ((営業費用 + 営業外費用) - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費) - 長期前受金戻入) / 年間総有収水量	有収水量1m ³ あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標		○	○	
施設利用率	= 一日平均配水量 / 一日配水能力	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合で、施設の利用状況等を判断する指標		○	○	
有収率	= 年間総有収水量 / 年間総配水量	施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標		○	○	